

語り合う

生命誌の広場

中村桂子の
ちょっと一言

ラボ日記

表現スタッフ日記

さまざまな交流

生命誌のこれからを
考える

生命誌の広場

テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」▶
- 研究について▶
- 季刊「生命誌」▶
- 展示・映像▶
- その他▶

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日
[この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日
[RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日
[アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日
[原爆について](#)
- 2019年09月05日
[BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日
[この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月
GO

みなさんからのご意見

季刊「生命誌」

季刊生命誌85号感想

投稿日：2015.08.26 名前：BRHカード読者Kさん

85号をお送頂き有難うございます。入館は桜に誘われての偶然でしたが、忘れていた少年期のワクワク感を思い起こしました。既刊10数点を読み始めています。

文系の頭には難解ですが、知的興奮と文章の綾が読後感として残ります。個は全体につながるという物の見方の引出しも貰った気分です。人物写真がいいですね。好きな事を語る時の顔は素敵になるのですね。図解の表現工夫も見事です。未知の扉の向こうを覗ける本誌からの知的刺激に感謝します。編集製作の工夫に拍手。

お返事

投稿日：2015.08.26 名前：中村桂子館長

カードで私たちが工夫しているポイントをついたコメントをいただき、嬉しくなっています。私たちみんな生きものですから文とか理とか区別せずに御一緒に考えていく仲間になって下さい。

季刊「生命誌」

季刊生命誌84号感想

投稿日：2015.08.26 名前：BRHカード読者Tさん

人物紹介もいつも楽しみです。生き方が参考になって。いろんな分野のお仕事されているのをコンパクトにまとめてある編集者の手腕にも感心しています。色づかいも美しく今まで送ってもらったのを大事にして、時々出して見えます。生きものの多様さ不思議さ!?!ですね。

お返事

投稿日：2015.08.26 名前：中村桂子館長

楽しんでくださっている様子のわかるコメントをいただきこれからの励みになります。とにかく“生きる”ということを巡って考えることは尽きることなくありますので、これからも御一緒に楽しんでください。

中村桂子の「ちょっと一言」

骨太の平和論

投稿日：2015.08.23 名前：kamo

先生の記事読みました。平和への祈り、良く伝わりました。昨今、骨太の平和論がすっかり影を潜めましたね。

日本人が戦争の惨禍を目の当たりにして、戦争は絶対してはいけないという決意が今揺らいでいます。

自民党の多くの長老政治家が、法案に危惧を抱いています。それは、自民党の政

新着情報



10月19日生命誌オープンラボ (19.10.01)

10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会(19.10.01)

昆虫脳の標本展示が登場!(19.10.01)

パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始(19.10.01)

あくあびあ芥川とスタンプラリー開催(19.10.01)

治家自身が、戦争をしてはいけないという思いを骨身にしみて実体験していたからだと思います。

戦争を知らない総理大臣が、暴走して、国を守ることが美しいことだと勘違いしています。

平和は願望や祈りではなくて、断固たる決意の表明でなくては実現できないと考えます。

我が憲法の前文と9条は相まって其の決意を表現して余りあります。

戦争によっては何も解決しません。戦争に至る如何なる懸念も、智力によって払拭するという決意と覚悟を、今こそ、次の世代に伝えるべき時だと考えます。武力によって離島を奪還するなどと言う愚かな蛮行を想定に於いてすら許してはなりません。私は、1946年生まれです。平和の祈りを託された世代です。

お返事

投稿日：2015.09.11 名前：中村桂子館長

コメントありがとうございます。国会の議論を聞いていますと”武力を使って積極的に平和を保つこと”ができるかの如く積極的平和主義という言葉が頻発しています。積極的平和という言葉の本来は、武力がないだけでは平和とは言わず、差別や貧困をなくす努力をすることが重要であるとし、この努力をすることを求めるものだったはずで

です。今本当に大事なものは貧困、差別をなくすことです。テロや内戦の原因の多くはここにあるのですから。これをなくして戦いをなくす。このような意味の言葉を出たために使うことを許しているのはどうしてでしょう。



中村桂子の「ちょっと一言」

文科省の考えに・・・意味不明

投稿日：2015.08.17 ニックネーム：teru

中村先生のおっしゃる言葉、実はこの春に日文研で井上章一副所長さんから、「文科省はこんなことをおっしゃっております」

国立大学には文系はいらないとか・・・

日文研に対する意見か・・・と思いながら聞いておりました。

どうもオリンピックもこんな調子で進めてこれ国立競技場が振り出しへ戻りました。ダメダメでしょう・・・

科学とは、自然とは、社会で言えば研究所はいるが本社はいらないとことを言っておられるように聞こえました。何を血迷ったことを・・・先の戦争もこんな調子だったかもしれませんね・・・海軍と陸軍の考え方の違い・・・320万人も犠牲者が・・・

エリートの方々の歩の扱い方だったようですね・・・国には深い反省はできてませんね・・・

お返事

投稿日：2015.08.18 名前：中村桂子館長

「戦略も戦術もない戦争をしたのです」と今頃いわれて320万の命はどうしてくれるのですかと思えます。国立競技場も、多くの人々が直して使えようとしてあれだけ言ったのに「元々好きではなかったのです」と今頃言われても思えます。振り出しに戻っていないのです。もしあの競技場を使っていたら世界中から高く評価されたはずですし、私たちがたくさんの歴史を生かして誇りを感じたはずで

す。本当に惜しいことをしました。お金の無駄遣いもちろ

ん。東北のことを思うと残念でしかたがありません。



中村桂子の「ちょっと一言」

歴史

投稿日：2015.08.16 ニックネーム：かっちゃん。

初めてお便りさせていただきます。シアトルで老後の人生を、もっぱら読書と随筆を書くことで過ごしております。『自己創出する生命』は何度も読み直し、今又、読んでいます。戦後70年の談話なるものの反応が、アメリカを始め、ヨーロッパでもメディアに取り上げられて注目されています。日本の歴史とは、日本民族の歴史（もの語り）であって、それは、まさに私たち日本人一人一人の歴史であると思えます。過去・現在・未来と区切って、それぞれが別々にあるものではなく、一貫してつながったもので、わたしたちのゲノムに書き込まれているもののように思えてなりません。いつまでも謝り続けるわけにはいかない、という表現には驚かされました。生命誌をとおしての中村先生のご活躍、

今後も注目させて頂くつもりです。まだまだ残暑も厳しいことと存じます。どうぞ、お体にはくれぐれも気をつけられてご自愛ください。

お返事

投稿日：2015.08.18 名前：中村桂子館長

お便りありがとうございました。

「自己創出する生命」は生命誌を始める時に書いたもので私にとっても大事な本なのでいねいに読んでいただけることとても嬉しいです。生きものは時間を紡ぐものですから、一貫してつながっていますね。その気持で物事を見ると、今の社会の問題点が見えてくるように思います。これからもお考えお聞かせ下さい。



中村桂子の「ちょっと一言」

本質を忘れる 立派な方々

投稿日：2015.08.03 ニックネーム：Teru

ご無沙汰いたしております。

酷暑お見舞いと言いたいですね・・・

久しぶりに先生の文章を拝読し、メス・オスの理解を指導する・・・しかし、ちょっと待てよ・・・ここからは先生の言葉を貼り付けました。

「最近の社会の動きを見ていると、人間のオスにもとにかく大きく見せようとしているところがあります。強いんだぞ、立派なんだぞと見せることに目を向け過ぎて、本質を忘れているのではないかと思うことしばしばです。武力など用いずに、一人一人のいのちを大切に暮らす方がよい。きっと子どもたちはそう思っているでしょう。お金に振り回され、はたらいっている人のことを忘れ、会社を立派に見せようとするのもおかしい。それにしても気になるのは、「メスの中にも時々いる」というお答えです。今の社会で、活躍しなさい、輝きなさいと言われると、そうなりかねません。そんなのおかしいよというのが私たちの役割だと思うのです。ナワ張り争いなどに眼を向けずに。」

大手新聞の社説に書いても良かったと思いながら読んでおりました。

お返事

投稿日：2015.08.07 名前：中村桂子館長

ありがとうございます。この頃とみにこの気持が強くなっています。女性が輝くなどと言われなくても、農村や商店街を始め、あらゆる場で女性は大活躍しています。議員になったり、会社の役員になることだけが活躍ではないですね。久しぶりとおっしゃらずにBRHのホームページのぞいて下さい。

▲ ページの先頭へ

サイトのご利用について | プライバシーポリシー | サイトマップ | アイアポリシー | サイトマップ



JT生命誌研究館
〒569-1125 大阪府高槻市紫町1-1 TEL:072-681-9750 (代) FAX:072-681-9743

copyright © JT Biohistory Research Hall 2012.